

## 消費者のより豊かな食生活をサポート トータルな品揃えと情報力で食品流通の構造改革に挑む

「Dr. Sumは、エンドユーザのパワーを本来の営業活動に向けさせる



### ▲食品流通のサバイバルで生き残るには 情報力の強化が欠かせない

本社のある熊本をはじめ、福岡、大分、鹿児島、宮崎と九州のほぼ全域にわたって食品流通および卸を展開している亀井通産。デパートやスーパーマーケット、チェーンストアを主な取引先として、取り扱いアイテムは、加工食品や冷凍食品、輸入食品、業務用食材など約6,000種類に及んでいる。最近では、地元熊本の特産品を扱う通販サイト「肥後っこ倶楽部」(<http://www.higokko.com/store/>)を開設するなど、より生活者に密着すべくビジネスの幅を広げている。

ただ、こうして九州一円に深く根を下ろしてきた亀井通産にとっても、食品流通業界に巻き起こっている構造改革の波は無縁ではない。食品の国際化、価格破壊の進行、流通のボーダーレス化などによって、まさにサバイバルの時代に突入しているのだ。

そうした中で生き残りのカギとなるのは情報力であると、本店営業部 商品課 係長 北里哲也氏は、次のように語る。

「今日では、お客様の目も非常にシビアになっています。営業スタッフが新しい商品を提案するにしても、単にその商品の良いところをアピールするだけではだめで、例えば『昨年の同時期に、類似のどんな商品が、どれくらい売れた』といった、何らかの裏づけを示さなければ受注には至りません。こうした仕入れの事情は弊社にとっても同じで、特に返品のかかない季節商品の場合、大量の在庫を抱えてしまうと経営を圧迫しかねません。客観的なデータに基づいて先を見通し、仕入れを的確にコントロールするといったことがますます重要になってきているのです。」

このような背景もあって亀井通産は現在、汎用機からオープン系システムへの移行を進めている過程にある。その第一段階としてDBサーバ(SQL Server)を導入。売上データ、仕入データ、請求データ、各種マスターデータなど、汎用機に入っているすべてのデータのコピーをそこに展開し、仮運用を開始した。

もっとも、いくらオープン系のシステムといえども、データ構造やSQLに関する専門知識を持たないエンドユーザにそのまま公開するには無理がある。また、大勢のエンドユーザのアクセスが集中すると、DBサーバには耐え切れないほどの負荷がかかってしまう。

そこで亀井通産は、エンドユーザのための情報活用

ツールとしてDr.Sumを導入したのである。これまで紙の帳票で行っていた情報配布を原則として一切廃止し、データの閲覧や集計といった操作のすべてをDr.Sumに一歩化した。

### 多次元高速集計ツール

Dr.Sum  
ドクター・サム

採用のポイント。

### ▲情報活用の環境をDr.Sumに一歩化し、 エンドユーザのストレスを解消

紙の帳票における最大の問題点は、その後の集計作業にたいへんな手間を要することだった。営業部や商品部のエンドユーザは、細かい数字が並んだ膨大なページ数の帳票の中から自分が必要とする項目のデータを拾い出し、Excelに手作業で再入力する、あるいは電卓を叩いて計算するといった作業を繰り返していたのである。亀井通産の情報処理やソフトウェア開発を担う、関連会社の幸和サービス マネージャー 福留輝久氏は、従来の汎用機での対応の難しさを次のように語る。

「一人ひとりの集計ニーズに対応した帳票を出力することも不可能ではありませんが、それには個別にプログラムの作成が必要で、どうしても1週間程度の時間がかかってしまいます。ところが、商談は3日後に迫っているといったケースがほとんどなのです。」

そこで亀井通産は、Excelのワークシートから目的のデータに直接アクセスし、自由自在に集計することができるDr.Sumに注目したわけである。「Dr.Sumを導入することで、集計に要する手間や時間を削減することもさることながら、エンドユーザの精神的なストレスを解消して、本来の業務である営業活動などに全力投球できるようにしたいと考えました。」と、福留氏は言う。

とはいえ、どんなに便利なツールを提供しても、従来のやり方も今までどおりに残っていたのでは、エンドユーザは、非効率な業務体質からなかなか抜け出すことはできないだろう。紙の帳票を廃止し、Dr.Sumに一歩化するというドラスティックな転換を図ったことには、このような理由があったわけだ。

### INTERVIEW

北里 哲也 氏 (写真上)

亀井通産株式会社  
本店営業部 商品課 係長

福留 輝久 氏 (写真下)

幸和サービス株式会社  
マネージャー

# USERS REPORT

## 亀井通産株式会社

INTERVIEW 亀井通産株式会社 本店営業部 商品課 係長 北里哲也 氏 / 幸和サービス株式会社 マネージャー 福留輝久 氏

### ▲システムにおける紙の消費量を年間で約6トンも削減

データの利用環境をDr.Sumに一本化する以上、エンドユーザの業務に支障をきたさないように、これまで帳票で配布してきた情報を、もれなくDr.Sumでもカバーする必要がある。これがDr.Sum導入における最大の課題だった。

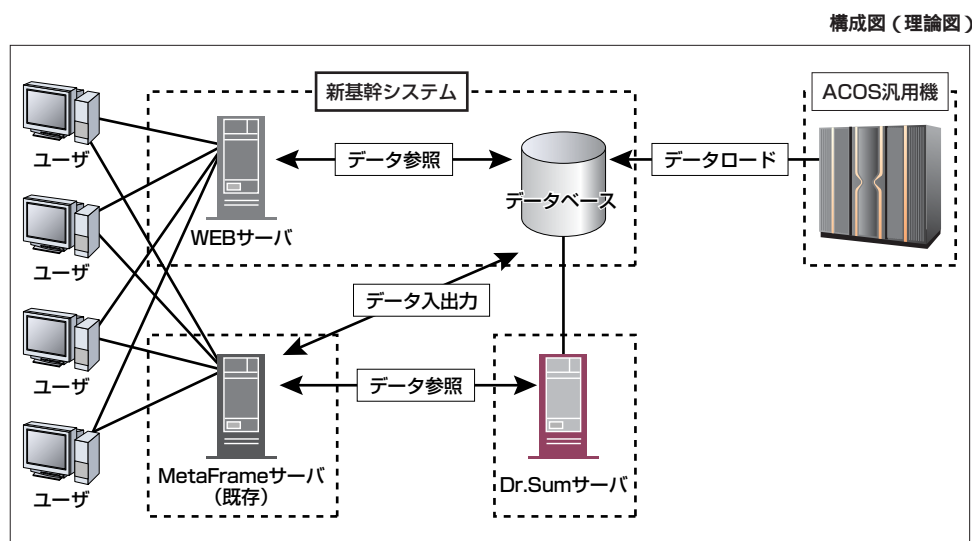
「まず140種類以上あった帳票を整理し、50種類程度にまで集約しました。もっとも、これらのデータのすべてが、そのまますなりとDr.Sumに移行できるわけではありません。サーバ上で別途計算を行い、目的とするデータを生成してからキューブに反映するといった工夫を重ねてきました。こうしてリアルタイム性を要求されるものを除き、これまで帳票で配布していたデータの約80%をDr.Sumの様式ファイルに置き換え、提供するところまで漕ぎつけることができました。」と、福留氏は言う。

また、システム構成上のポイントとして、亀井通産ではターミナルサービス・ソフトのMetaFrameを介してDr.Sumを公開している。この仕組みにより、遠隔地に勤務している従業員も、シンクライアントを含む端末からネットワークを通じて本社のシステムにアクセスし、リモートでDr.Sumを利用することができるのだ。

こうした数々の取り組みが功を奏してDr.Sumの利用者層は、営業部や商品部を中心として社内に着実に裾野を広げていった。その結果として、「システムにおける紙の消費量がどれくらい減ったかを調べてみたところ、年間換算で約6トンにも達することが分かりました。」(福留氏)というような効果も生まれている。

亀井通産は、引き続き移行を進めていくオープン系インフラのもと、積極的に新しい技術を取り入れていく計画だ。「例えば、音声受注や伝票のOCR入力といった仕組みを導入したいと考えています。また、経理と会計を連動させることで業務を効率化し、経営のスピードアップを図ることも大きなテーマです。」と、北里氏は言う。

現時点においても亀井通産のシステムは、年間1,000万件を超えるデータを扱っているのだが、今後のITの利用拡大にともなって、データ量はさらに増加していくと予想される。多様化と大規模化を加速するデータをいかに有益に活用していくのか。その基盤としてDr.Sumは、ますます重大な役割を担っていくことになりそうだ。



#### ● 亀井通産株式会社 プロフィール

創立：昭和24年（創業：明治2年）  
本社：熊本県熊本市  
事業内容：総合食品卸売業。飲食事業部門：五山、風和里、美容事業部門：ジュリークショップイムズ店、ジュリークショップ岩田屋店。生活者のニーズはさらに多様化し、「本物志向」「健康志向」や「個食化」「簡便化」といった相反する嗜好に因るため、生活者本位のトータルな食品流通システムを提案している。  
URL <http://www.kamei-tsusan.co.jp/>

#### ● 幸和サービス株式会社 プロフィール

創立：昭和60年  
本社：熊本県熊本市  
事業内容：KAMEIグループの情報処理関連業務。システム開発・オペレーション・ユーザサポートなどを中心に、ハードウェアの調達からソフトウェアの開発まで手がけている。

Dr.Sum に関するお問い合わせ

Form&Data



ウイングアーク テクノロジーズ 株式会社

URL <http://www.wingarc.com/>

- [本社] 〒150-0044 東京都渋谷区円山町28-5 1st渋谷ビル  
TEL:03-5962-7300(代) FAX:03-5962-7301
- [西日本] 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-8-17 大阪第一生命ビル11F  
TEL:06-6225-7481 FAX:06-6225-7482
- [中部日本] 〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦2-3-4 名古屋錦フロントタワー3F  
TEL:052-218-9520 FAX:052-218-9521

開発元: デジタル・ワークス株式会社

詳細 URL <http://www.drsum.com>

本リーフレットに掲載した会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。実際の製品と内容が異なる場合があります。本カタログに掲載される仕様およびデザインは、予告なしに変更する場合がありますのであらかじめご了承ください。掲載内容は2005年3月現在のものです。